



巻頭エッセイ .....	1
シリーズ「福祉にみる“いのち”」⑤ .....	2
コラム「人間を考える」⑦ .....	3
2020年度講座案内 .....	4

同朋大学 “いのちの教育” センター  
〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1  
TEL 052-411-1373  
Eメール宛先 inochi@doho.ac.jp

## ● 同朋大学 “いのちの教育” センターだより

今年度から新たに北島信子教授が所員に就任し、さっそく今号にご執筆いただきました。今号も “いのちの教育、にふさわしい充実した内容になりました。センターは新たにスタートした大学院人間学研究科との協働・連携を図りつつ、連続講座（全5回）の開催と BRIDGE（年2回）の刊行を中心に活動し、新型コロナウイルス問題が長期化する中で、そうであるからこそ考えるべき “いのちの教育、の課題に向き合っていきたいと思えます。

# 2020.7.1 No.52

## “いのちの教育”センターに望むこと

—「センター」と「人間学研究科」の協働・連携— 目黒 達哉

2020年4月1日、松田正久学長のリーダーシップのもと、大学院文学研究科と人間福祉研究科は一本化され、人間学研究科仏教人間学専攻博士前期課程（仏教文化分野・人間福祉分野・臨床心理分野）、後期課程（仏教文化分野・臨床心理分野）となり、後期課程に臨床心理分野を新設いたしました。研究科の専攻名は仏教人間学専攻であり、その根底には現代社会の諸問題における人間の生き方を建学の精神「同朋和敬」を礎に仏教文化、人間福祉、臨床心理の各分野からより深く実践研究を展開しようという思いが込められています。

そこで、研究科はセンターとの実践研究の協働・連携を切に望みます。

たとえば、このところ、新型コロナウイルスの影響により、資本主義経済社会は根幹から揺さぶられ、「私たちはどう生きるのか？」という問いを突き付けられました。たとえこのウイルスを封じ込めることが可能な治療薬が開発され

たととしても、その反作用でさらに強いウイルスが発生する恐れがあり、戦いは永遠に続きます。まさに、いたちごっこといえます。「私たちは何を為す必要があるのでしょうか？」「私たちは何に気づく必要があるのでしょうか？」この問いに私が答えるとすると、抽象的ですが「思いやりと優しさを実践する」ということになります。馬鹿げていると思われる方もいるでしょう。しかし、答えは難解なものではなく、簡素なものかもしれません。

「新型コロナウイルス問題が私たちに問いかけるものは何なののでしょうか？」という課題にセンターとともに向き合い、実践研究を展開できればと思います。

最後になりましたがこのような機会をお与えくださいました安藤 弥 センター主幹に深謝申し上げます。

（本学大学院人間学研究科長）

## 野村芳兵衛の教育観と宗教

北島 信子

野村芳兵衛（1896-1986）は、大正新教育期に「池袋児童の村小学校」の訓導として活躍した、生活教育の開拓者として著名な実践家である。戦後は郷里の岐阜を中心に活躍した。野村は熱心な浄土真宗の門徒であった両親の教育によって、幼い頃から親鸞への篤い信仰をもち続けたことでもよく知られている。

野村は子どもの生活を主体とした学びを組織するにあたって、教師と子どもたちが平等な相互関係のもとで生活する理念を打ち立てた。彼は教師が子どもの上位にたって教育するということを否定し、教師と子どもの関係は、信仰における平等の位置づけとしての「同行」関係であるべきだとした。

親鸞がすべての友に向かって御同行、御同朋と呼びかけ、語り合い、助け合っ

て生きてきたことに野村は強い感銘を受

け、教師として、自身も子どもたちにとっての同行でありたいと述べている。

「同行」という教師と子どもの関係は、教師を上位に位置づけて、子どもを一方的に指導するというのではなく、両者は相互に学び合って「一緒に歩いていく」関係なのである。それぞれの個性を尊重した、平等な「学び合い」は、他者を媒介として自己中心主義を乗り越えるものである。

「同行」としての教師とは、すべての子どもに「仏のよびごえ」を聞く教師であり、そこから得られる発達保障の観点をもった教師であるといえる。浄土真宗の信仰を基底とした野村の教育観は、現代の教育における教師と子どもの関係をよりよくするための教育実践の指針となりうるものであろう。

（本学社会福祉学部社会福祉学科）

## コラム 「人間を考える」⑦

### 死を受け入れる準備

渡邊 幸彦

大学で「遠隔授業」開始に向けた説明会が開かれた4月30日、リモートでの説明が終わったちょうどその時に、妻からの電話で義父が亡くなったと知らされました。農業一筋に生きてきた義父は、その日昼まで元気に仕事をしていたのですが、自分で農機を動かそうとして事故に遭い、本当に突然の別れとなりました。

検死を終えて義父が家に戻って来た後、通夜、葬儀と日を置かずに行が進んだ上、コロナの影響で近親者以外の参列が制限され、焼香台は遠く離され、正信偈を唱和しないよう指示があるなど、別れの儀式の手順をきちんと踏むことすら封じられて、死の実感が得られないまま、未だ義父の死を受け入れることができずにいます。

そこから遡ること三週間、4月10日は学生の頃から大ファンだった映画監督の大林宣彦さんが亡くなりました。義父

と同学年の大林監督は、2016年にがんで余命宣告を受けたことを公表していましたが、痩せ細っていく自身の姿をマスコミの前で決して隠そうとはしませんでした。監督は、積み上げてきた作品だけでなく、最期まで映画を撮り続けた自身の生き様をも見せることで、我々に十分な準備時間を与えてくれたようにも思うのですが、それでも死を受け入れがたいものであることに変わりありません。

今から二十年前、その大林監督が本学五〇周年記念で講演されたことを記憶している人は少なくなりました。あの頃大学の未来を語り合っていた先輩や同僚の何人もが志半ばで亡くなっていきましたが、彼らの死を想うたび「後悔」の念を抱かずにはられません。死を受け入れることがいかに難しいか、改めて考えさせられる今日この頃です。

(本学文学部人文学科)

# 同朋大学“いのちの教育”センター講座一覧

連続いのちの講座 テーマ “いのち”の教育

会場 Do プラザ 閲覧 無料

9/29(火) 16:20～17:50

デンマーク人のくらしと人生からみる高負担・高福祉の共同社会

講師 汲田千賀子 (本学 社会福祉学部 准教授)

10/27(火) 16:20～17:50

新型コロナウイルスと情報教育 — 国語学の場合 —

講師 園田博文 (本学 文学部 教授)

11/10(火) 16:20～17:50

大学教育の現場から“いのち”の課題を考える

講師 松田正久 (学長)

12/8(火) 16:20～17:50

子どもの“いのち”を守ること — 子ども虐待への支援 —

講師 千賀則史 (本学 社会福祉学部 准教授)

1/12(火) 16:20～17:50

お釈迦さまも不安だった? — 生老病死に向きあって —

講師 織田顕祐 (本学 文学部 特任教授)

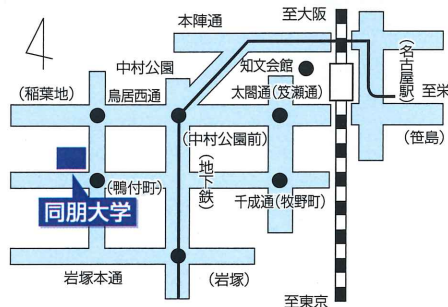
## 所員

- センター主幹：安藤 弥 (文学部 教授)  
 所員：森村 森鳳(張偉) (文学部 教授)  
 所員：北島 信子 (社会福祉学部 教授)  
 所員：岩瀬 真寿美 (社会福祉学部 准教授)  
 所員：市野 智行 (文学部 専任講師)

## お問い合わせ先

同朋大学 “いのちの教育” センター  
 〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1  
 ☎ 052-411-1373

## 同朋大学 周辺地図



交通 市バス/栄又は笹島より②系統稲西車庫行、鴨付町下車  
 地下鉄/中村公園より③系統稲西車庫行、鴨付町下車